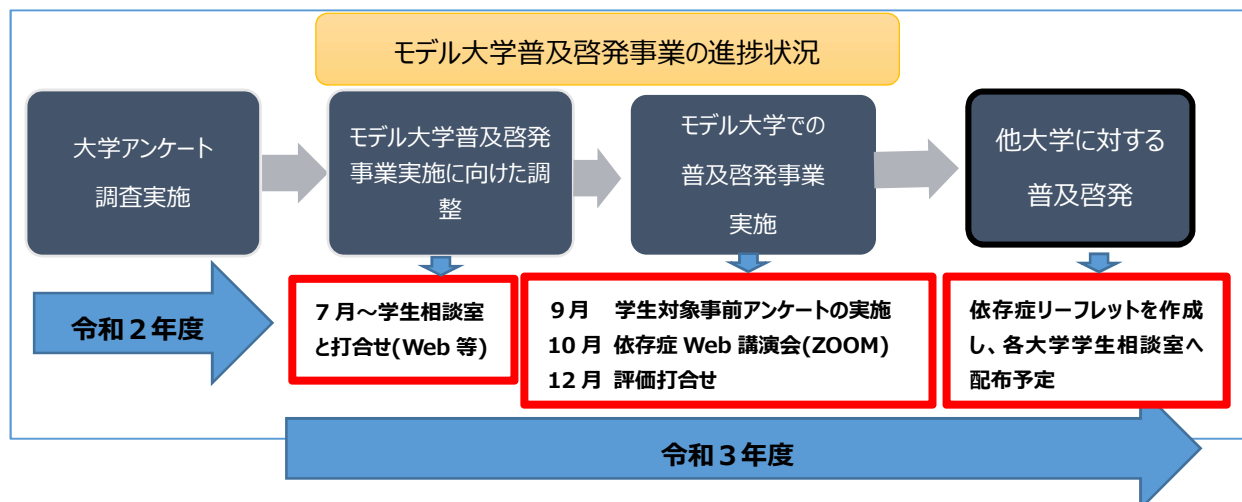


普及啓発事業について

1 令和 3 年度モデル大学普及啓発事業の実施結果



- モデル大学(酪農学園大学)の協力の元、学生、保護者、教員を対象とした「依存症 Web 講演会」を実施(10/19)
- 講演「わかっているけどやめられない依存症～正しく知って相談しよう～」(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂部長)
- 受講者 31 名。オンデマンド配信 11/9～12/8 まで YouTube 限定公開。
- 事後アンケート(回答率 61.3%)は、講演内容の理解度は 84.2%が理解できた、15.8%がまあまあできた、との回答。受講の感想は、「誰でもかかりうる病気だとわかった」「生活や家庭・養育環境、人間関係に病気に至る背景や問題が隠れていることがわかった」「家庭や医療機関に理解者がいることの大切さを感じた」などの記載。
- 今後の取組～依存症リーフレットを作成し、大学の学生相談室へ配布・周知を予定。学生からの相談活用を依頼する。

2 令和 3 年度依存症普及啓発セミナーの実施結果

- 一般道民を対象に、「依存症普及啓発セミナー」(ZOOM)を実施 (11/27)
- 講演「ギャンブル等依存症について」(北星学園大学 田辺教授)、「アルコール健康障害について」(旭山病院 山家理事長)、当事者体験談(ギャンブル依存症当事者)をプログラム。
- 受講者 67 名。札幌市内が最多であったが、全道各地からの申込みがあった。
- オンデマンド配信 12/22～1/20 まで YouTube 公開。
- 事後アンケート(回答率 68.7%)は、講演内容の理解度は 70%が理解できた、30%がまあまあ理解できた、との回答。受講の感想は、「身近な問題として考える機会となった」「自分が病気だと認め、根本的な心の問題等と向き合うことが大切であると感じた」「人間関係の障害ということが印象的だった」「実際の自助グループの活動について勉強できた」などの記載。オンライン開催の感想は、参加しやすかったと高評価であり、効果的方法だった。
- 今後の取組～普及啓発の機会として、Web によるセミナーを継続して開催する。

3 今後の取組の方向性について

- 依存症リーフレットを作成し、他大学の学生相談室へ配布・周知を予定。学生相談の際に活用を依頼する。
- 普及啓発の機会として、Web によるセミナーを継続して開催する。
- 「アルコール依存症に関する市民講座」の実施(R4 年 8 月予定)。大塚製薬株式会社と共催によるオンラインの市民講座を企画